

自己評価報告書

平成23年 5月 9日現在

機関番号：25406

研究種目：基盤研究（B）

研究期間：2008～2011

課題番号：20320038

研究課題名（和文） 中近世芸備地域の文芸とその社会的基盤に関する基礎的研究

研究課題名（英文） The fundamental research on the Literature and its social base in the Geibi region(Hiroshima Prefecture) before the Meiji Period

研究代表者

樹下 文隆 (KINOSHITA FUMITAKA)

県立広島大学・人間文化学部・教授

研究者番号：70195337

研究分野：日本芸能史

科研費の分科・細目：文学・日本文学

キーワード：国文学 日本史 書誌学 文献学

1. 研究計画の概要

中世末から近世初期にかけての芸備地域における文芸活動について、政治・経済・信仰・流通などの社会的基盤に着目し、毛利氏の役割とその影響を明らかにする。

中国地方を統一支配した毛利氏政権時代、政権の拠点であった芸備地域では、大内氏の文化遺産を継承し、京の文化を摂取するなど、活発な文芸活動が行われた。交通の要所であり経済的に恵まれた地域なので、豊富な財力が文化に向けられたことで、中世末期には相当の文化的蓄積があった。芸備地域は毛利氏時代の文化的蓄積をどのように継承し、新たな文化をどのように摂取・消化したのだろうか。芸備地域に関わる文化遺産を、毛利氏の文化政策と関連付けて考察する。

2. 研究の進捗状況

(1)『厳島縁起』に関して、2種の伝本（山口大学図書館本、広島井上家旧蔵本）を発見し、うち広島井上家旧蔵本を入手し、翻刻・紹介した。

(2)『元就記』に関して、2種の伝本（島原松平文庫本、広島井上家旧蔵本）を見出し、うち広島井上家旧蔵本を入手した。

(3)永禄年間に毛利氏が文化的な職能者を家臣団に組み込んだこと、室町幕府重臣渋川氏を厚遇し、幕臣だった大和宮内の子孫を召し抱えたことなど、毛利氏の文化基盤が確立していく過程を明らかにした。

(4)毛利輝元時代の御嶋廻に関する新史料や『房頭記』の新伝本を発見・紹介した。

(5)『啓迪集』の室町写本が芸備地域に伝来していることを突きとめ、来年度に精査する予定である。

(6)戦国毛利氏の勢力拡大に果たした厳島合

戦等の戦史について、毛利氏の石見銀山支配の展開について、新知見を得ることが出来た。(7)厳島における奉納和歌、連歌、芸能に関して、神事、建造物、人物、文学作品のそれぞれに検討を加え、厳島信仰普及の実態に迫ることが出来た。

(8)大内氏、毛利氏及び厳島居住の神官・僧侶・住民が、厳島信仰の普及とどのように関わっていたのかを知ることができた。

(9)戦国期から江戸期に至る芸備地域の文化を解明すべく、芸備地域伝来の典籍、文書類の目録作成を行うとともに、毛利家文書、浅野家文書及び『浅野家済美録』等から、毛利氏以来の文化政策に関する記述の摘出作業を行っている。

(10)上記の研究成果を、県立広島大学人間文化学部紀要、宮島学センター年報等に掲載した。

3. 現在までの達成度

②おおむね順調に進展している。

(理由)

これまでの研究蓄積が役立っていることに加えて、各年度末に、その年度の成果を踏まえて研究計画の細部に変更を施し、実行可能かつ全体のテーマに即した課題を選択することによって、無理な計画を立てないように心がけているため。

4. 今後の研究の推進方策

(1)引き続き毛利家文書、毛利家家臣の諸家文書を初めとする毛利氏関係文書、厳島文書等の芸備地域に伝存する文書類から、文化政策に関わる記述を抽出する。

(2)これまでに把握した芸備地域での伝来が確認できる蔵書を精査し、書写事情や伝来事情を調査し、各地の図書館・文庫などに赴き、

芸備地域での伝来が確認できる蔵書を探索・調査する。

(3) 芸備地域に伝存する典籍・文書類の保存状況について調査し、毛利氏以来の文化財行政を研究する。

(4) 芸備地域で流布したと思われる漢籍、医書、仏書、社寺縁起等について、伝本の調査・研究を行う。

(5) 芸備地域に伝存する毛利氏時代及び毛利氏時代以後の政治、経済、交通。信仰、流通等に関わる事例を整理する。

(6) 研究実施者各自が今年度に得た知見に基づき、紀要等に研究成果を発表する。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 12 件)

- ① 石川一、『厳島宝前和歌』『厳島奉納和歌』校注、県立広島大学人間文化学部紀要、査読無、6、2011、p. 218-226
- ② 大知徳子、史料紹介 毛利輝元書状と御嶋廻、宮島学センター年報、査読無、1、2010、p. 41-47
- ③ 樹下文隆、翻刻・県立広島大学蔵『厳島縁記』、宮島学センター年報、査読無、1、2010、p. 29-40
- ④ 西本寮子、元就没後の毛利氏周辺一文芸関係資料を手がかりとして一、芸備地方史研究、査読無、271, 272、2010
- ⑤ 松井輝昭、厳島神社蔵瀧戸本『房頭記』の紹介とその意義、宮島学センター年報、査読無、1、2010、p. 12-28
- ⑥ 秋山伸隆、厳島研究の成果と課題－戦国期研究の立場から－、厳島研究、査読無、5、2009、p. 68-74

[学会発表] (計 7 件)

- ① 松井輝昭、厳島神社の海上社殿と龍神信仰、平成 22 年度中世文学会秋季大会、2010 年 10 月 23 日、県立広島大学
- ② 松井輝昭、戦国時代の厳島神社における天神社建立の史的意義、広島史学研究会、2009 年 10 月 25 日、広島大学
- ③ 大知徳子、戦国期厳島神社の神事・祭礼－棚守房頭と大願寺－、芸備地方史研究会大会、2009 年 7 月 5 日、広島大学
- ④ 樹下文隆、「毛利元就父子雄高山城滞留日記」をめぐって、藝能史研究会第 45 回大会、2008 年 6 月 1 日、同志社女子大学今出川 C.
- ⑤ 樹下文隆、厳島の能楽と桃花祭神能の成立をめぐって、能楽学会第 7 回大会、2008 年 5 月 19 日、早稲田大学大隈小講堂